

# 伊勢国摺物所 大竹堂について

飯田 良樹

趣味の一環として江戸時代から明治時代にかけての伊勢を題材とした書籍や道中記及び版画を収集している。

ある程度集まってくると、これらを摺ったり印刷した摺物所や印刷所が気になり『これであなたも歴史探偵!』千枝大志編の72頁「お土産版画で明治期の伊勢変遷を探索してみよう」内の版画の移り代わりと明治の伊勢お土産版画の発行元を表にして掲載した。

発行元	刊行年	題名	発行元	刊行年	題名
津市西町大竹堂印刷	1877	津市西町大竹堂印刷	1877	津市西町大竹堂印刷	津市西町大竹堂印刷
津市西町大竹堂印刷	1878	津市西町大竹堂印刷	1878	津市西町大竹堂印刷	津市西町大竹堂印刷
津市西町大竹堂印刷	1879	津市西町大竹堂印刷	1879	津市西町大竹堂印刷	津市西町大竹堂印刷
津市西町大竹堂印刷	1880	津市西町大竹堂印刷	1880	津市西町大竹堂印刷	津市西町大竹堂印刷
津市西町大竹堂印刷	1881	津市西町大竹堂印刷	1881	津市西町大竹堂印刷	津市西町大竹堂印刷
津市西町大竹堂印刷	1882	津市西町大竹堂印刷	1882	津市西町大竹堂印刷	津市西町大竹堂印刷
津市西町大竹堂印刷	1883	津市西町大竹堂印刷	1883	津市西町大竹堂印刷	津市西町大竹堂印刷
津市西町大竹堂印刷	1884	津市西町大竹堂印刷	1884	津市西町大竹堂印刷	津市西町大竹堂印刷
津市西町大竹堂印刷	1885	津市西町大竹堂印刷	1885	津市西町大竹堂印刷	津市西町大竹堂印刷
津市西町大竹堂印刷	1886	津市西町大竹堂印刷	1886	津市西町大竹堂印刷	津市西町大竹堂印刷
津市西町大竹堂印刷	1887	津市西町大竹堂印刷	1887	津市西町大竹堂印刷	津市西町大竹堂印刷
津市西町大竹堂印刷	1888	津市西町大竹堂印刷	1888	津市西町大竹堂印刷	津市西町大竹堂印刷
津市西町大竹堂印刷	1889	津市西町大竹堂印刷	1889	津市西町大竹堂印刷	津市西町大竹堂印刷
津市西町大竹堂印刷	1890	津市西町大竹堂印刷	1890	津市西町大竹堂印刷	津市西町大竹堂印刷
津市西町大竹堂印刷	1891	津市西町大竹堂印刷	1891	津市西町大竹堂印刷	津市西町大竹堂印刷
津市西町大竹堂印刷	1892	津市西町大竹堂印刷	1892	津市西町大竹堂印刷	津市西町大竹堂印刷
津市西町大竹堂印刷	1893	津市西町大竹堂印刷	1893	津市西町大竹堂印刷	津市西町大竹堂印刷
津市西町大竹堂印刷	1894	津市西町大竹堂印刷	1894	津市西町大竹堂印刷	津市西町大竹堂印刷
津市西町大竹堂印刷	1895	津市西町大竹堂印刷	1895	津市西町大竹堂印刷	津市西町大竹堂印刷
津市西町大竹堂印刷	1896	津市西町大竹堂印刷	1896	津市西町大竹堂印刷	津市西町大竹堂印刷
津市西町大竹堂印刷	1897	津市西町大竹堂印刷	1897	津市西町大竹堂印刷	津市西町大竹堂印刷
津市西町大竹堂印刷	1898	津市西町大竹堂印刷	1898	津市西町大竹堂印刷	津市西町大竹堂印刷
津市西町大竹堂印刷	1899	津市西町大竹堂印刷	1899	津市西町大竹堂印刷	津市西町大竹堂印刷
津市西町大竹堂印刷	1900	津市西町大竹堂印刷	1900	津市西町大竹堂印刷	津市西町大竹堂印刷

江戸時代から伊勢では摺物所として有名な講古堂、松阪では本居宣長の出版を一手に引き受けた柏屋などがあるが、今回は明治時代から大正時代にかけて活躍した大竹堂について書いた。



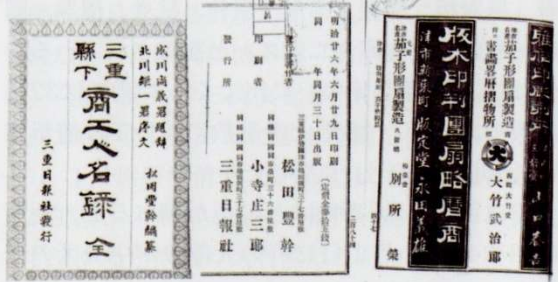
この版画は香良洲公園内にあった日の出館。発行年月日不明であるが、下段には津市西町大竹堂発行となっている。



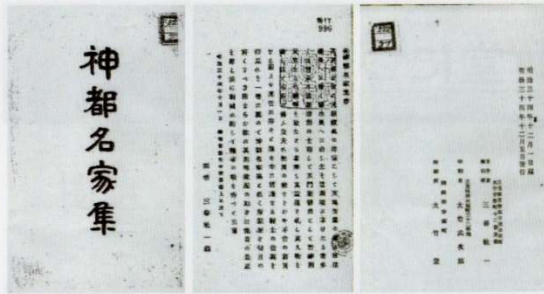
外宮前にあった字仁館。これも発行年月日不明であるが、左隅に津市西町大竹堂印刷とある。津市西町に大竹堂があったのだとわかったが、西町の何処にあり、どの位活動したか。



『伊勢みやげ 名所画十二景』 明治30年  
大販賣 伊勢国津西町 大竹武三郎  
これにより、大竹武三郎が印刷・販売者とわかった  
ので、津市法務局で津市西町に大竹武三郎が住  
んでいたか調べたが見つからなかった。



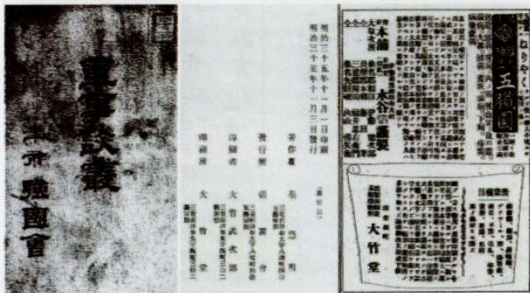
『三重県下商工名録』明治26年の広告に、  
書画略歴刷物所 大竹堂大竹武治郎



『神都名家集』明治34年三谷敏一 印刷者大竹武次郎 印刷所大竹堂

(国立国会図書館デジタルアーカイブより)

広告と名家集に大竹武治郎と大竹武次郎と出ているので調べ直すと、西町1283番に大竹武治郎が明治32年まで記載され、1月23日に誤記訂正で大竹武次郎、明治38年2月22日株式会社津農商銀行が所得となり、明治40年以降は個人が買得していた。なお、『神都名家集』には大竹武次郎は西町32番地となっているが数字が西町としては小さく32番屋敷の可能性もあり、国立国会図書館デジタルアーカイブで大竹堂と入力すると、『軍事談叢』が出てきた。



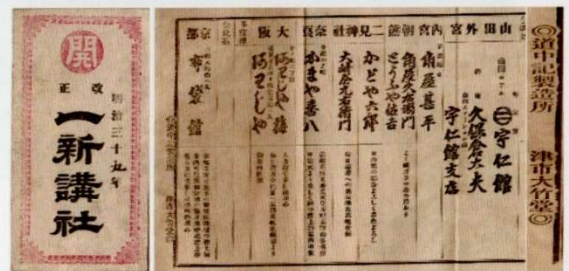
秦慧明著 明治35年発行 印刷者大竹武治郎 印刷所大竹堂で共に住所が三重県津市大字西町三拾二番屋敷であり、前の頁には大竹堂の広告が掲載されていた。活版印刷並美術刷物所で営業種目には「諸書籍、雑誌、デツテール (detail詳細図)、暦、掛看板、簿記、手形、引札、株券、債券、圖扇、名刺其ノ他好ミニ応ズ」と記載されている。やはり、『神都名家集』に出てくる32番地は32番屋敷であった。(番地と番屋敷については前年度『雲出川 第40号』に書いた)

では西町1283番地はどの辺か調べると、西町は昭和47年5月1日に町の大部分が中央区の一部となり、昭和56年7月4日の土地区画整理事業の施工に伴い残りの区域が北丸之内に編入される。法務局の旧地籍図とゼンリン地図の昭和45

年からみると、赤丸の所となった。



では、明治38年以降をみると



宇仁館が依頼で『一新講社』道中記製造所 津市大竹堂となっているが、興味深いのは明治37年が明治39年に書き換えられていることで、移転で印刷が間に合わなかったのか。



明治34年の伊勢の旧御師が作った『御師講社』の定宿帳であるが、これには津市西町大竹堂が発行となっているが

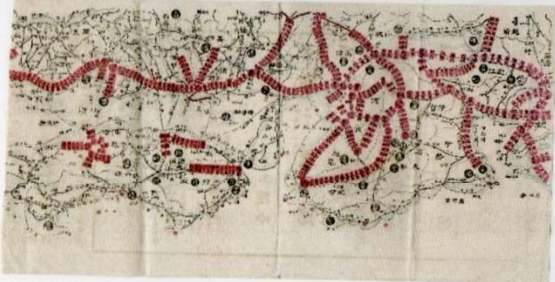
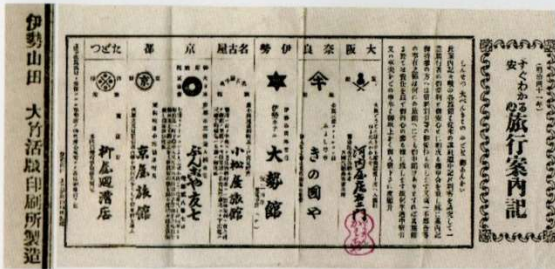


明治43年の『御師講社』の発行依頼は三日市大夫次郎で道中記製造所 伊勢山田 大竹活版印刷所となっている。



大正3年『御師講社 指定旅館』伊勢内宮の瑞穂館依頼で道中記製造所 山田市大世古町 大竹堂とある。

集めた資料を表にしてみると



『すぐわかる安心旅行案内記』は明治41年に伊勢山田大竹活版印刷所製造と記載されている。

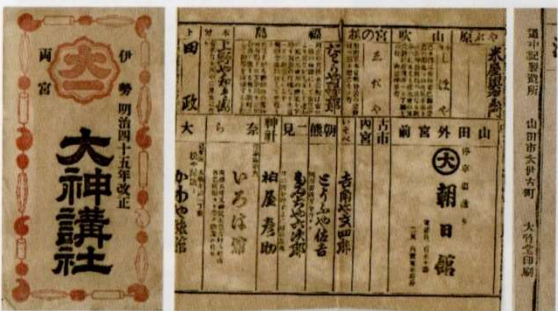
名称	発行年	名称	発行所	住所
伊勢香良洲津 日出館商業	?		大竹堂印行	津市西町
外宮前原大屋 宇仁館	?		大竹堂印刷	津市西町
真誠講 初瀬街道 1 枚物	?	道中記製造所	大竹堂	津
真誠講 同型社中	?	道中記製造所	大竹堂	津
酒井龍身作(二木本)古書	明治22年	引札大図鑑 8	大竹武治郎	津市
八百善(魚町)乾物	明治23年	引札大図鑑 44	大竹武治郎	津市
三重県下郷工人名録(広書で)	明治26年	書画懸壁掛物所	大竹堂大竹武治郎	津市西町
改良 一新講社	明治27年	道中製法所	大竹堂	伊勢津
原組 改良組	明治27年	道中製法所	大竹堂	伊勢津
改良 真誠講社	明治29年	道中製法所	大竹堂	津市西町
伊勢みやび 名南南 12景	明治30年	大販賣	大竹武三郎	伊勢津西町
御師講社	明治34年	道中製法所	大竹堂	伊勢津西町
神郡名家集	明治34年	印刷所 印刷者	大竹堂大竹武治郎	津市西町三十二番地
大西芳三郎(分館)製版所	明治35年	引札大図鑑 42	大竹武治郎	津市
軍事談書(広書も収録)	明治35年	活版印刷並装綴印刷所	大竹武治郎	津市西町三十二番尾敷
すぐわかる安心旅行案内記	明治41年		大竹活版印刷所	伊勢山田
御師講社	明治43年	道中製法所	大竹活版印刷所	伊勢山田
大神講社	明治45年	道中製法所	大竹堂印刷	山田市大世古町
御師 御師神帳	大正03年	道中製法所	大竹堂	山田市大世古町
改正 一新講社	大正03年	全国道中製造元	大竹活版所	伊勢山田

『引札大図鑑』第二回津市収蔵版収録 津市教育委員会 平成9年

記載されていた発行年月日と住所から見ると、明治22年から明治35年までが津市西町に発行所があり、明治41年以降は伊勢山田市大世古町となっている。津法務局の戸籍謄本では、明治38年から、何かの理由で津市から山田に移転したようであるが、伊勢法務局で調べても大世古に大竹竹次郎を見つける事ができなかった。今後の調査が必要である。

文献的に三重の出版について調べてみた。岡本勝の「近世三重の出版」『三重県史研究第6号』1990年を見ると津市では大森伝右衛門、篠田伊十郎、松月堂、長野屋、山形屋が出てくるが大竹堂はなかった。大和博幸の「明治期の地方出版業者」『國學院大学伝統文化リサーチ研究紀要第3号』2011年では津市に雲出屋篠田伊三郎(停雲舎)、丁子屋服部清七(寿楽堂)、本屋沢田佐兵衛(文錦堂)、山形屋大森伝右衛門(陽華堂)と掲載されているがやはり大竹堂はなかった。

津市西町の大竹堂が出版したのは、引き札では香良洲の日の出館、伊勢の宇仁館、津市の店舗、定宿帳は真誠講、御師講社、一新講、改良組、大



『大神講社』明治45年改正で道中記製造所 山田市大世古町 大竹堂印刷とあり発行依頼は外宮前の朝日館である。

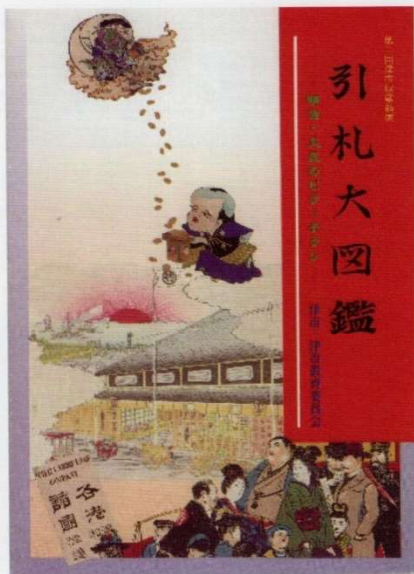
神講社、本では神都名家集、『軍事談叢』、お土産物では伊勢みやげ名所12景などがある。

このように幾種類の出版物を大竹堂は出しているが、私が調べた文献には掲載されていなかったもので郷土資料として報告する。

追記

平成9年に第2回津市収蔵品展があり、図録『引札大図鑑 明治・大正のピラ・チラシ』が発行された。その中に掲載されている大竹堂発行引き札を提示する。

(津市教員委員会生涯教育課の掲載許可を頂きました)



8 酒井屋与作 古着・太物等  
編集発行/大竹武治郎 木版色刷り 明治23年略曆つき



42大西芳三郎 製機所・紙・元紙・横寸高 明治35年

明治35 大竹武治郎(津市)



48日置 製物・名物類 明治23年

明治23 大竹武治郎(津市)

引き札については、「久居本町 新木屋さんの引き札」『雲出川 第33号』を参照して下さい。

定宿帳の追加

